



平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年10月30日

上場会社名 株式会社マースグループホールディングス
 コード番号 6419 URL <http://www.mars-ghd.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 佐藤 敏昭

TEL 03-3352-8555

四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日

配当支払開始予定日

平成30年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	11,796	3.8	2,215	68.5	2,437	65.8	864	8.1
30年3月期第2四半期	11,359	3.2	1,315	32.3	1,470	30.6	941	33.6

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 597百万円 (12.3%) 30年3月期第2四半期 680百万円 (39.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	51.79	
30年3月期第2四半期	56.37	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	59,321	52,266	88.1	3,129.74
30年3月期	60,644	52,254	86.2	3,128.99

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 52,266百万円 30年3月期 52,254百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		35.00		35.00	70.00
31年3月期		45.00			
31年3月期(予想)				35.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,300	12.3	4,700	33.6	5,100	32.9	3,350	28.4	200.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	22,720,000 株	30年3月期	22,720,000 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	6,019,964 株	30年3月期	6,019,964 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	16,700,036 株	30年3月期2Q	16,700,155 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の向上や雇用・所得環境の改善が続き、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、国内では、地震や台風等の自然災害や記録的な猛暑の影響があり、海外では、米国の保護主義的な経済政策に起因する貿易摩擦や金融資本市場の変動の影響が懸念されており、世界経済の不確実性の高まりから、先行不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループは「お客様お役立ち精神」を掲げ、全てのお客様の満足を勝ちとるために、開発型企業グループとして独創的な発想で製品や仕組みを世の中に生み出し、社会に貢献できる企業を目指して活動しております。開発から製造、販売、アフターサービスに至る一貫体制で、製造原価の低減や多様化する顧客ニーズに適した製品を開発・販売するとともに、充実したアフターサービス体制で付加価値の向上に努め、アミューズメント関連事業を基盤事業に自動認識システム関連事業、ホテル関連事業を展開いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高117億96百万円（前年同四半期比3.8%増）、営業利益22億15百万円（同68.5%増）、経常利益24億37百万円（同65.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益8億64百万円（同8.1%減）となりました。

なお、役員退職慰労金の贈呈及び固定資産の減損処理で特別損失10億86百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

[アミューズメント関連事業]

アミューズメント関連事業の主な販売先であるパチンコ業界は、本年2月に施行された「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則」や7月に国会で成立した「ギャンブル等依存症対策基本法（平成30年10月5日施行）」の影響により、パチンコホールの新規出店や改装を控える傾向は依然強く、底打ちの兆しが見受けられるものの市場環境は低調に推移しました。

このような状況の中で、慢性的な人手不足や人件費の高騰等の問題を解決できるパーソナルPCシステムは、業界のスタンダードとして広く認知され、特に新式パーソナルPCシステム「マースユニコン」は大型店を中心に導入されました。

当第2四半期連結累計期間におけるパーソナルの売上実績は30店舗、当第2四半期連結累計期間末時点における導入（実稼働）店舗数は累計1,627店舗（市場シェア19.5%）となりました。また、パーソナルを含めたプリペイドカードシステムの売上実績は32店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,915店舗（市場シェア23.0%）となりました。

空気力で紙幣を搬送する業界随一のAir紙幣搬送システムは、順調に導入が進み、導入件数は累計で840店舗を越えました。また、ハイスペックモデルの立体Air紙幣搬送システムは、ホール業務の省力化やセキュリティの強化が評価されており、競合他社との差別化を図った販売を展開してまいりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、80億82百万円（前年同四半期比17.6%増）、セグメント利益は19億83百万円（同50.5%増）となりました。

[自動認識システム関連事業]

自動認識システム関連事業における市場は、AIやIoTをキーワードとし、スマートフォン向け小型電子部品や電気自動車向けリチウム電池の需要が世界的に高まっており、また、国内においては製造業や物流業を中心に自動化・省力化のニーズが高まっていることから回復基調で推移しました。

自動認識システムは、RFID、バーコード、X線検査装置等を媒体として各種データを精査しながら自動的に取り込み・認識ができるため、様々なビジネスシーンでの活用が期待されております。当社グループではFA市場、流通市場、アミューズメント市場、健診市場等、広く新規市場への展開を目指して提案販売活動を行ってまいりました。また、FA市場向け検査装置として、世界トップクラスの高分解能（性能）を誇るX線源を搭載した産業用X線検査装置の販売を競合他社との差別を図りつつ強化してまいりました。

前期に牽引していた大型案件が一巡したことや当初計画に比べ一部の受注が遅れていることから、自動認識システム関連事業の売上高は、27億44百万円（前年同四半期比25.3%減）、セグメント利益は2億62百万円（同28.4%減）となりました。

[ホテル関連事業]

ホテル業界におきましては、平成29年の訪日外国人数が2,869万人と5年連続で最高記録を更新しており、観光需要は好調に推移しました。

博多地区でトップクラスの稼働率を誇るホテルサンルート博多は、稼働率が90%を超えており、前年の全館リニューアルオープン以降は客単価の向上につながりました。静岡県御殿場市のマースガーデンウッド御殿場は、新規顧客とリピーター獲得のため、宿泊者向けのイベントを定期的に開催しました。インバウンドの影響も受けて、稼働率は前年より向上しました。関連事業の「海鮮処 博多松月亭(ホテルサンルート博多内)」及び「鉄板焼 銀明翠GINZA(東京銀座)」は、インバウンドの影響や認知度が高まるに連れて利用客が増加しました。また、7月には「寿司 銀明翠 博多(ホテル日航福岡内)」、10月には「鉄板焼 銀明翠GINZA(東京銀座)」の新フロアをオープンしました。

この結果、ホテル関連事業の売上高は9億69百万円(前年同四半期比20.0%増)、セグメント損失は34百万円(前年同四半期は3億73百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は593億21百万円となり、前連結会計年度末と比較して13億22百万円減少いたしました。

流動資産は368億84百万円となり、前連結会計年度末と比較して12億20百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、受取手形及び売掛金が4億76百万円減少し42億92百万円、リース債権及びリース投資資産が2億63百万円減少し8億59百万円となりました。

固定資産は224億36百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億1百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、建物及び構築物(純額)が1億72百万円減少し65億27百万円となりました。

流動負債は44億36百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億99百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、未払法人税等が5億41百万円減少し2億81百万円となりました。

固定負債は26億18百万円となり、前連結会計年度末と比較して7億36百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、役員退職慰労引当金が5億44百万円減少し2億2百万円となりました。

純資産は522億66百万円となり、前連結会計年度末と比較して12百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が2億80百万円増加し485億65百万円となりました。

自己資本比率は88.1%となり、前連結会計年度末と比較して1.9ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は241億76百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億42百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は15億15百万円の収入(前年同四半期は3億67百万円の支出)となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益13億50百万円、営業貸付金の減少額7億81百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は6億89百万円の支出(前年同四半期は23億1百万円の支出)となりました。主な要因は、投資有価証券の取得による支出3億26百万円、有形固定資産の取得による支出1億38百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は5億92百万円の支出(前年同四半期は5億76百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払額5億92百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、平成30年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,933,711	24,176,383
受取手形及び売掛金	4,768,848	4,292,583
リース債権及びリース投資資産	1,122,619	859,236
有価証券	349,930	349,895
商品及び製品	2,043,734	1,877,613
仕掛品	261,220	313,739
原材料及び貯蔵品	1,119,945	1,157,431
その他	4,506,214	3,858,393
貸倒引当金	△460	△358
流動資産合計	38,105,764	36,884,919
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,700,127	6,527,437
土地	6,057,217	5,944,509
その他(純額)	504,164	573,945
有形固定資産合計	13,261,509	13,045,891
無形固定資産	121,997	111,508
投資その他の資産		
投資有価証券	7,027,492	7,092,246
その他	2,249,500	2,289,645
貸倒引当金	△122,098	△102,828
投資その他の資産合計	9,154,894	9,279,064
固定資産合計	22,538,402	22,436,464
資産合計	60,644,166	59,321,383
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,046,125	2,028,972
リース債務	715,228	598,436
未払法人税等	823,118	281,773
賞与引当金	442,079	452,383
その他	1,008,848	1,074,502
流動負債合計	5,035,399	4,436,068
固定負債		
リース債務	904,395	725,829
役員退職慰労引当金	746,155	202,029
退職給付に係る負債	542,642	549,671
資産除去債務	29,787	42,712
その他	1,131,618	1,098,270
固定負債合計	3,354,599	2,618,513
負債合計	8,389,999	7,054,581

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	48,285,549	48,565,874
自己株式	△12,315,252	△12,315,252
株主資本合計	52,276,226	52,556,551
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	228,472	△53,906
退職給付に係る調整累計額	△250,532	△235,843
その他の包括利益累計額合計	△22,059	△289,750
純資産合計	52,254,167	52,266,801
負債純資産合計	60,644,166	59,321,383

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	11,359,050	11,796,364
売上原価	5,932,391	5,646,331
売上総利益	5,426,658	6,150,033
販売費及び一般管理費	4,111,625	3,934,182
営業利益	1,315,032	2,215,851
営業外収益		
受取配当金	140,562	190,265
その他	15,705	31,143
営業外収益合計	156,267	221,409
営業外費用		
為替差損	1,119	—
営業外費用合計	1,119	—
経常利益	1,470,181	2,437,261
特別損失		
減損損失	—	113,897
役員退職慰労金	—	972,995
特別損失合計	—	1,086,892
税金等調整前四半期純利益	1,470,181	1,350,368
法人税、住民税及び事業税	529,278	355,606
法人税等調整額	△425	129,936
法人税等合計	528,853	485,542
四半期純利益	941,327	864,825
親会社株主に帰属する四半期純利益	941,327	864,825

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	941,327	864,825
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△282,851	△282,379
繰延ヘッジ損益	4,716	—
退職給付に係る調整額	17,342	14,688
その他の包括利益合計	△260,792	△267,690
四半期包括利益	680,535	597,135
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	680,535	597,135

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,470,181	1,350,368
減価償却費	329,105	274,894
減損損失	—	113,897
引当金の増減額(△は減少)	△31,078	△553,194
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	9,490	7,028
受取利息及び受取配当金	△141,176	△190,964
売上債権の増減額(△は増加)	716,848	476,264
リース債権及びリース投資資産の増減額(△は増加)	74,162	275,094
たな卸資産の増減額(△は増加)	△421,770	76,116
営業貸付金の増減額(△は増加)	△1,220,463	781,865
仕入債務の増減額(△は減少)	△379,745	△17,153
リース債務の増減額(△は減少)	△98,992	△295,357
その他	506,838	78,501
小計	813,399	2,377,361
利息及び配当金の受取額	141,176	198,841
法人税等の支払額	△1,321,881	△1,060,649
営業活動によるキャッシュ・フロー	△367,305	1,515,552
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△534,008	△138,489
投資有価証券の取得による支出	△1,723,919	△326,440
その他	△43,672	△224,309
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,301,600	△689,239
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△108	—
配当金の支払額	△576,757	△592,105
財務活動によるキャッシュ・フロー	△576,865	△592,105
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,994	8,464
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,243,777	242,671
現金及び現金同等物の期首残高	25,444,664	23,933,711
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,200,887	24,176,383

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	6,875,255	3,675,516	808,277	11,359,050	—	11,359,050
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	266,880	62,885	7,639	337,405	△337,405	—
計	7,142,136	3,738,402	815,916	11,696,455	△337,405	11,359,050
セグメント 利益又は損失 (△)	1,318,277	366,441	△373,229	1,311,488	3,544	1,315,032

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額3,544千円には、セグメント間取引消去3,544千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	8,082,348	2,744,287	969,729	11,796,364	—	11,796,364
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	286,664	110,050	4,705	401,419	△401,419	—
計	8,369,012	2,854,337	974,434	12,197,784	△401,419	11,796,364
セグメント 利益又は損失 (△)	1,983,977	262,506	△34,120	2,212,363	3,488	2,215,851

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額3,488千円には、セグメント間取引消去3,488千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。